

2021年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人こらそん
代表者・役職名 氏名非常勤職員 落合栄仁

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

コロナ禍における余暇支援の継続および発展

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2004年4月に立川市手をつなぐ親の会有志から地域デイグループとして学齢児の余暇活動を支援する為に立川市にて発足。設立以後は立川市内の施設を利用しながら、放課後・休日の余暇活動を中心に活動。継続活動を経て、2012年、法人格取得に至る。現在も学齢から成人の方の支援まで幅広く支援しています。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

コロナウィルスの流行に伴い障害のある全ての当事者の生活は、より多くの困難に直面している。中長期的に見てもこの様な状況は当面続くと推察できる。当事者は主体的に余暇を豊かにする事に難しさがあり困難な状況であるからこそ、社会全体でその場所と機会を積極的に創出していく必要があると考える。また発想を転換し、限られた中でこそ作れる豊かさを考え、体現していく必要もあると考える。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

現在当法人で行っている知的障害児の余暇活動のうちの、コロナによって受ける制限の少ない室内活動(講師を招いての活動)を強化継続させていく。従来は活動時間の長い土曜・日曜にのみ講師による活動を行っていたが、コロナウィルスによる外出制限に伴い、平日も拡充している現状がある。当事者目線でも外へ出る機会が減り“我慢”の多い現在の状況であるが、事態が収束し振り返った際に“我慢ばかりだった”ではなく“あの時だからこそその楽しさがあった”と振り返れることを目標としている。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

申請時の通り、エアロビクスは半年間月2回実施(12回)、運動療育は半年間月2回(12回)、リトミックは半年間月6回(36回)実施出来た。コロナ感染拡大に伴い外出制限の多い中でのこうした講師による室内活動の活性は、利用者の豊かな余暇活動の実現と体幹等の筋力向上の大きな一助となった。また、コロナ感染拡大に伴い講演機会の減少を余儀なくされていた講師の方の地域における活動場所の確保にも繋がり、社会的な還元も果たせたと感じている。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

助成期間後もコロナの感染拡大は続いており、継続した室内活動の充実は必須である。既存の講師による活動は引き続き継続をすると共に、助成を頂いたエアロビクス、リトミック、運動療育以外に、取り組んでみたい活動や要望を利用者から聞き取り、可能な限り活動に反映させ、“コロナ禍だからこそその活動”を目指し、発展と充実を図ってゆく。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。



リミック活動の様子（手遊び）



エアロビクス活動の様子（パラシュート感覚遊び）